

## 歯学部

学位プログラム： 歯学

授与する学位： 学士（歯学）

### 教育目標

---

大阪大学及び歯学部教育目標のもと、口・顎・顔面領域を通して人のからだ全体を科学の目で見ることができ、次世代の歯学研究・歯科医療をけん引できる次のような能力を備えた人材の育成を目指します。

#### ○高度な専門性と深い学識

- ・口・顎・顔面領域を中心とした生命科学に関する専門的知識を備えた人材の育成を目指します。

#### ○教養

- ・関連する学問分野との連携を推進する学際性を備えた人材の育成を目指します。
- ・多様な背景を持つ人々と意思疎通することができる人材の育成を目指します。

#### ○国際性

- ・口・顎・顔面領域を中心とした生命科学に関する領域において、国際的な視野をもって必要な情報を収集する能力を備えた人材の育成を目指します。

#### ○デザイン力

- ・心理面や社会的側面なども含め患者個人に即した全人的歯科医療を実践する歯科医療人の育成を目指します。
- ・口・顎・顔面領域を中心とした生命科学に関して独創的な研究を展開する実行力を備えた人材の育成を目指します。

#### ○プロフェッショナリズム（独自の教育目標）

- ・医療人として必要な強い責任感及び倫理観を備えた人材の育成を目指します。

上記に加え、学位プログラム「歯学」では、歯科医学が口と全身との関わりも含めた幅広い分野へと拡大している現状を踏まえ、大学、研究所、医療機関、企業、行政・公的機関など、多様な分野で指導的な立場として活躍できるグローバルな人材の輩出を目標としています。

## 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

---

大阪大学及び歯学部ディプロマ・ポリシーのもと、口・顎・顔面領域に基盤をおいた生命科学分野を対象として、以下にあげるような能力を修得した学生に学士（歯学）を授与します。

### ○高度な専門性と深い学識

- ・口・顎・顔面領域を中心とした人体の構造、機能、発生、成長及び加齢変化を階層的・統合的に理解し、説明できる。
- ・口・顎・顔面領域を中心とした人体に発生する感染症、疾患などを階層的・統合的に理解し、説明できる。
- ・口・顎・顔面領域に発生する疾患とこれらに伴う障害に対する検査法、診断法、予防法、治療法、治療材料について説明できる。

### ○教養

- ・広く人文科学、社会科学及び自然科学の分野に対して興味を示し、歯科医学の発展に貢献できる。
- ・患者や家族、多職種の医療者と適切にコミュニケーションできる。

### ○国際性

- ・国内外における最新の歯科医学及び歯科医療行政等に関する情報を的確に収集できる。

### ○デザイン力

- ・口・顎・顔面領域に発生する疾患について、適切に診断するとともに、患者の持つ社会的・個人的背景を考慮した治療計画の立案、治療の実施、患者指導ができる。
- ・歯科医師としてチーム医療を支え、多職種のスタッフとのチーム医療の重要性を理解し実践することによって患者の QOL 向上に貢献できる。
- ・歯科医学・医療に関する未知・未解決の問題を発見し、その解決に取り組むことができる。

### ○プロフェッショナリズム（独自の学習目標）

- ・常に新たな専門的知識及び技術を習得し、生涯にわたりエビデンスに基づいた歯科医療を実践できる。
- ・法規・規範を遵守するとともに、医療人としての高い倫理性を有し、自己犠牲と奉仕の精神をもって行動できる。

歯学部学生は、卒業時に生涯にわたって歯科医療者としての自己研鑽に取り組む姿勢を備えるとともに、歯科医学に関する研究に対しても国際的な視野を持った上で論理的な思考を行うことが

でき、歯科医療人として十分なデザイン力を身につけることができます。すなわち、教育の成果として「プロフェッショナリズム」、「コミュニケーション能力」、「歯科医学及びそれに関連する領域の知識」、「歯科医療に関する技能及びそれを実践できる態度」、「歯科医学に関する科学的な研究」の各領域に習熟するようになります。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

---

大阪大学及び歯学部のカリキュラム・ポリシーのもと、専門力、俯瞰力、複眼的思考能力及び国際性を涵養し、将来の多様なキャリアパスを支援する教育プログラムを実践します。

### <教育課程編成の考え方>

学生が卒業時に到達すべき学修目標を達成するために、全学共通教育科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を体系的かつ統合的に配置し、学位プログラム（歯学）における教育成果として掲げたコンピテンスの各項目を段階的に学修できる一貫教育として編成します。

### <学修内容及び学修方法>

学生が卒業時に習熟していることが求められる「プロフェッショナリズム」、「コミュニケーション能力」、「歯科医学及び関連する領域の知識」、「歯科医療に関する技術及びそれを実践できる態度」、「歯科医学に関する科学的な研究」の各領域に関係する授業を、低学年から繰り返し配置することによって、統合的かつ段階的な学修を実現します。

- ・ 1、2 年次に実施される全学共通教育科目では、大学での学び方を学修することを目的とした少人数によるゼミナール形式の授業に加え、専門教育科目の履修に必要な生物学、物理学、化学などの分野に対して講義、実験を行い、基礎学力を養成します。さらに、アーリーエクスポージャーとしての臨床体験によって学修へのモチベーションを高めるとともに、歯科医師としての倫理観の獲得にむけた基礎的な知見の習得を目指します。

- ・ 専門教育科目（基礎系科目）では、講義、実習に加え、PBL、研究室配属プログラムなどのアクティブラーニングプログラムを実施し、基礎学力の定着を図ります。

- ・ 専門教育科目（臨床系科目）では、講義、実習に加え、PBL 等による問題解決型プログラムを実施し、歯科臨床への応用力を養成します。

- ・ 共用試験合格後に実施する臨床実習では、歯学部附属病院及び臨床実習協力施設にて臨床実習生（歯学）として患者に対する治療を担当するとともに、在宅診療や周術期の口腔管理、多職種連携など学外での実習も併せて実施します。同時に、基礎科目と臨床科目を統合したセミナーを受講することによって基礎科目の理解が臨床において重要であることを再確認します。これらのカリキュラムを実施することによって、患者個人に即した全人的歯科医療を実践できるだけでなく、常に新しい専門的知識及び技術を習得し続け生涯にわたりエビデンスに基づいた歯科医療を実践できる能力、すなわち歯科医師としてのデザイン力を養成します。さらに、選択科目として短期間の海外留学プログラムを実施することによって、多様な分野で活躍できるグローバルな人材の育成を図ります。

### <学修成果の評価方法>

段階的学修の各々のステップにおいて、ポートフォリオにより学習者自身の振り返りを促すと

ともに、小テスト、観察記録などによる形成的評価を繰り返し行い、学習者が確実に学修目標に到達できるようサポートします。学修の成果は総括的評価として、筆記試験、口頭試験、実技試験、ポートフォリオ、観察記録などによって評価します。

学位プログラム「歯学」では、1、2年次に実施される全学共通教育科目及び専門教育科目において、歯学部での学修に必要な基礎的知識を再確認すると共に、歯科医師として必要な倫理観を学びます。その後は、口・顎・顔面領域に基盤をおいた生命科学に関する知識を幅広く修得する科目に加え、基礎歯科医学の研究室配属プログラム、海外交流プログラム、問題解決型学習、さらに、全人的歯科医療を実践するために必要な歯科医療技能及びコミュニケーション能力の育成演習などを順次行います。6年間を通して、統合的かつ段階的な学修ができるようなカリキュラム構成となっており、すべての学生が教育目標を達成できるよう手厚くサポートします。